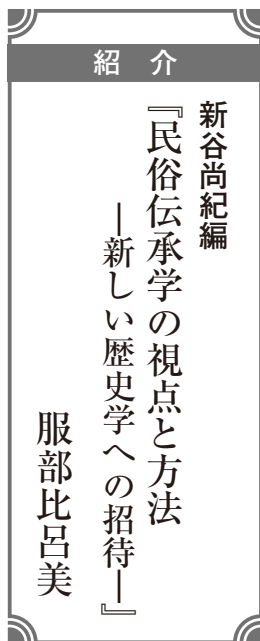


國學院大學学術情報リポジトリ

〔紹介〕 新谷尚紀編『民俗伝承学の視点と方法：
新しい歴史学への招待』

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 服部, 比呂美, Hattori, Hiromi メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/00000482



本書は、「民俗学とは何か」を問い直すことを目的に編まれたものである。

日本民俗学は、柳田國男が折口信夫の理解と協力を得て確立した。それは単にイギリスのフォークロアやドイツのフォルクスクンデの翻訳学問ではなく、民間伝承の比較研究から、その内容を歴史情報として分析し、文献資料だけでは描けない文化の変遷を明らかにしようするものであった。文献資料による歴史情報の上に伝承情報をのせ、変遷を見出すという方法を十分に理解した折口は、そこからさまざまな理論を打ち立てていった。編著者・新谷尚紀氏は本書の中で、戦後の大学教育において、民俗学の基本的な視点と方法であった比較研究法が全否定されたことによって、民俗学の独自性が失われつつある現状を嘆き、

これを再評価すべきであると強く主張している。さらに、新たな世代の民俗学徒に対しては、民俗学が伝承分析の学問であるという基本姿勢から、あらたに「民俗伝承学」、英語では「the Study of Traditions: *traditionology*」と名乗るべきであると説いている。

本書の構成は二部構成で、第一部「民俗伝承学とは何か」には、新谷氏の「民俗伝承学の視点と方法」、関沢まゆみ氏の「比較研究法の有効性 ―時差のある変化― その研究実践例から」、小川直之氏の「祖霊と未完成霊 ―折口信夫と柳田國男の祖霊信仰論―」の三論文が収録され、あらためて柳田・折口以来の研究方法の独創性を意義づけている。

第二部「民間伝承学の実践」には、編著者が九年間、國學院大學で指導した学生の論文を収録する。それらは、全国的な視野で蒐集した伝承実態の比較研究、個別課題の事例研究、一定地域内での詳細な事例研究と比較研究の併用、かつては盛んで現在は失われつつある民俗事象の研究などに分類できるが、いずれも民俗の歴史世界を動態的に明らかにするという「民間伝承学」に正面から向き合ったものといえよう。

(A5判、三二〇頁、吉川弘文館、二〇一八年十一月発行、九五〇〇円＋税)